

# プロ級アプリ構築マスターマニュアル

---

## 目次

---

### 第1章：ワークフロー設計の極意

- 1-1. 思考を整理する - アイデアを形に
- 1-2. 基本的なワークフローの型
- 1-3. 複雑なワークフローの組み立て方

### 第2章：全ノード徹底解説

- 2-1. 基本ノード（開始, LLM, 回答）
- 2-2. ツールノード（Google検索, DALL-E 3など）
- 2-3. ロジックノード（IF/ELSE, 反復）
- 2-4. テンプレートノード - テキストを自在に操る
- 2-5. 変数ノード - 情報を記憶・整理する

### 第3章：実践的アプリ構築（WriteGenius Pro編）

- 3-1. 設計思想とワークフローの全貌
- 3-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説
- 3-3. カスタマイズと改善のポイント

### 第4章：実践的アプリ構築（YouTube Script Pro編）

- 4-1. 設計思想とワークフローの全貌
- 4-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説
- 4-3. カスタマイズと改善のポイント

## 第5章：実践的アプリ構築（Image Master AI編）

- 5-1. 設計思想とワークフローの全貌
- 5-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説
- 5-3. カスタマイズと改善のポイント

## 第1章：ワークフロー設計の極意

---

### 1-1. 思考を整理する - アイデアを形に

優れたアプリ開発は、優れた設計から始まります。いきなりDIFYを触るのではなく、まずは以下の点を紙やマインドマップに書き出してみましょう。

- 誰の、どんな課題を解決したいのか？
- そのために、どんな情報が必要か？（入力）
- AIに、どんな処理をさせたいか？（処理）
- 最終的に、どんな結果が欲しいのか？（出力）

### 1-2. 基本的なワークフローの型

ほとんどのアプリは、以下の基本的な型、またはその組み合わせで構成されています。

- 入力 → 処理 → 出力（シンプルな文章生成など）
- 入力 → 検索 → 処理 → 出力（Webの情報に基づいた回答など）
- 入力 → 分析 → 分岐 → 処理 → 出力（条件に応じた回答など）

### 1-3. 複雑なワークフローの組み立て方

複雑なアプリも、小さな機能の組み合わせです。まずは中心となる機能を実装し、そこから徐々に機能を追加していく「段階的開発」が成功の鍵です。

**例：ブログ記事執筆アプリの場合**

1. **基本機能：** テーマを入力したら、記事を生成する
2. **機能追加①：** Google検索で情報を補強する
3. **機能追加②：** 複数のAIに執筆させ、比較・統合する
4. **機能追加③：** SEO分析機能を追加する

## 第2章：全ノード徹底解説

---

### 2-1. 基本ノード

- **開始 (Start)**: ユーザーからの入力を受け取る、ワークフローの起点です。テキスト、画像、選択肢など、様々な形式の入力フィールドを設定できます。
- **LLM (Large Language Model)**: AIに処理を依頼する、ワークフローの心臓部です。使用するAIモデルやプロンプトを設定します。
- **回答 (Answer)**: 最終的な結果をユーザーに表示します。テキストだけでなく、画像やファイルを出力することも可能です。

### 2-2. ツールノード

- **Google検索**: 最新のWeb情報をリアルタイムで検索し、その結果をAIに渡すことができます。
- **DALL-E 3, Stable Diffusion**: プロンプトに基づき、画像を生成します。
- **その他**: DIFYには、Webサイトからの情報取得、コード実行など、様々なツールが用意されています。

### 2-3. ロジックノード

- **IF/ELSE**: 条件に応じて、処理の流れを分岐させます。「もしAならばBを実行し、そうでなければCを実行する」といった制御が可能です。
- **反復 (Iteration)**: リスト形式のデータ（検索結果など）を一つずつ処理します。これにより、複数の情報源を基にした、より深い分析が可能になります。

### 2-4. テンプレートノード

- テキストや変数を組み合わせて、新しいテキストを生成します。プロンプトを動的に変更したり、出力結果を整形したりする際に使用します。

### 2-5. 変数ノード

- ワークフロー内で情報を一時的に記憶・整理するためのノードです。複数の処理結果を統合したり、複雑な条件分岐を行ったりする際に役立ちます。

## 第3章：実践的アプリ構築（WriteGenius Pro編）

---

### 3-1. 設計思想とワークフローの全貌

WriteGenius Proは、「人間とAIの協業」をコンセプトに設計されています。単に記事を生成するだけでなく、SEO分析や競合調査といった、プロのライターが行う一連の作業を自動化することを目指しています。

**ワークフローの全体像：** 1. **情報収集フェーズ：** Google検索で上位記事を収集 2. **分析フェーズ：** 収集した情報を基にSEO分析 3. **企画フェーズ：** 分析結果に基づき、複数の構成案を作成 4. **執筆フェーズ：** 2つの異なるAIが、それぞれの強みを活かして執筆 5. **編集・校正フェーズ：** 2つの記事を統合し、最終的な記事を完成させる

### 3-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説

- **SEO分析ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「検索意図」「関連キーワード」「共起語」「共通構成」といった、具体的な分析項目を指示することで、精度の高い分析を実現しています。
- **構成案作成ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「王道解説」「具体的事例」「意外な視点」といった、異なる切り口を強制することで、ありきたりな構成案になるのを防いでいます。
- **最終統合ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「熟練の編集長」という役割を与え、2つの記事の優れた点を統合するように指示することで、より高品質な記事を生成しています。

### 3-3. カスタマイズと改善のポイント

- **AIモデルの変更：** より高性能なAIモデル（例：GPT-4o, Claude 3 Opus）に変更することで、記事の品質をさらに向上させることができます。
- **分析項目の追加：** SEO分析ノードに、独自の分析項目（例：「ターゲット読者の悩み」「記事の独自性」）を追加することで、より深い分析が可能になります。
- **構成案の数を増やす：** 構成案作成ノードのプロンプトを修正し、5つや10つの構成案を生成させることも可能です。

## 第4章：実践的アプリ構築（YouTube Script Pro編）

---

### 4-1. 設計思想とワークフローの全貌

YouTube Script Proは、動画制作のプロセスを「分解」し、各工程を専門のAIが担当するという分業体制をコンセプトにしています。

**ワークフローの全体像：** 1. **リサーチフェーズ：** Google検索でテーマに関する情報を収集 2. **企画フェーズ：** 収集した情報を基に、視聴者の興味を引く企画を立案 3. **構成フェーズ：** 企画に基づき、動画の構成を作成 4. **執筆フェーズ：** 構成に基づき、台本を執筆 5. **ビジュアル化フェーズ：** 完成した台本から、サムネイル画像を生成

### 4-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説

- **企画立案ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「視聴者が思わずクリックしたくなるような、刺激的なタイトル案を10個提案してください」といった、具体的な指示を与えることで、AIの創造性を引き出しています。
- **台本執筆ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「{話者}：セリフ」「{ナレーション}：」「{テロップ}：」といった、具体的な出力形式を指定することで、編集しやすい形式の台本を生成しています。
- **サムネイル画像生成ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 台本の内容を要約し、「{キーワード}を強調した、インパクトのあるサムネイル画像を生成してください」といった、抽象的な指示を与えることで、AIの解釈の幅を広げています。

### 4-3. カスタマイズと改善のポイント

- **動画の尺を指定する：** 開始ノードに「動画の尺（分）」という入力項目を追加し、その変数を各ノードのプロンプトに組み込むことで、指定した尺に合わせた台本を生成できます。
- **ペルソナ設定を追加する：** 開始ノードに「ターゲット視聴者」という入力項目を追加し、その情報を基に、よりターゲットに響く企画や台本を生成させることができます。

- **BGMや効果音の提案機能を追加する：** 台本執筆ノードのプロンプトに、「各シーンに合ったBGMや効果音を提案してください」という指示を追加することで、よりリッチな台本を生成できます。

## 第5章：実践的アプリ構築（Image Master AI編）

---

### 5-1. 設計思想とワークフローの全貌

Image Master AIは、「AIとの対話を通じて、ユーザーの潜在的なイメージを具現化する」ことをコンセプトにしています。ユーザーがプロンプトを考えるのではなく、AIが質問することで、より深いニーズを引き出します。

**ワークフローの全体像：** 1. **意図理解フェーズ：** ユーザーの最初の入力から、生成したい画像のテーマを理解 2. **質問生成フェーズ：** テーマを深掘りするための、適切な質問を生成 3. **プロンプト構築フェーズ：** ユーザーとの対話を通じて得られた情報を基に、最適なプロンプトを構築 4. **画像生成フェーズ：** 構築されたプロンプトを基に、複数のAIモデルで画像を生成 5. **修正・改善フェーズ：** 生成された画像に対するユーザーのフィードバックを基に、プロンプトを修正し、再生成

### 5-2. 各ノードの詳細設定とプロンプト解説

- **質問生成ノード：**
- **プロンプトのポイント：** 「ユーザーの曖昧な要求を、具体的な画像の要素に分解するための質問を5つ生成してください」といった、メタ的な指示を与えることで、的確な質問を生成させています。
- **プロンプト構築ノード：**
- **プロンプトのポイント：** これまでの対話履歴をすべて読み込ませ、「これらの対話内容を基に、最高の画像を生成するための、英語のプロンプトを作成してください」と指示することで、文脈を理解したプロンプトを生成しています。
- **画像生成ノード（DALL-E 3, Stable Diffusion）：**
- **設定のポイント：** 同じプロンプトでも、モデルごとに異なる画像が生成されるため、両方のモデルを同時に実行し、ユーザーが選択できるようにしています。

### 5-3. カスタマイズと改善のポイント

- **対応する画像生成AIを追加する：** MidjourneyやLeonardo AIなど、他の画像生成AIと連携するツールノードを追加することで、さらに多様なスタイルの画像を生成できます。
- **スタイル選択機能を追加する：** 開始ノードに「画風（アニメ風、リアル風など）」という選択肢を追加し、その情報をプロンプト構築ノードに渡すことで、ユーザーが好みの画風を選択できるようになります。
- **プロンプトの学習機能を追加する：** ユーザー評価の高かったプロンプトをナレッジベースに保存し、プロンプト構築ノードがそれを参考にすることで、アプリが自己学習し、より賢くなっていきます。